



不登校児童生徒の状況

市では、不登校対策を喫緊の教育課題と位置づけ、不登校「^{ゼロ}0」を目指して様々な取組みを進めている。その結果、不登校の割合は徐々に減少しつつある。

1 不登校の出現率の推移

豊岡市の不登校の出現率は、全国や県と比較して概ね低い。

本市の中学校の出現率は減少傾向にあり、平成23年度は平成19年度と比較して半減している。

本市の小学校の出現率は、年度により増減を繰り返している。平成23年度は、前年度に比べてアップしているが、その原因についてはっきり特定できるものはない。

(1) 小学校

	全国 不登校 割合(%)	兵庫県 不登校 割合(%)	豊岡市		全児童数
			不登校		
			割合(%)	人数	
H19	0.34	0.24	0.13	7	5,253
H20	0.32	0.23	0.04	2	5,174
H21	0.32	0.22	0.20	10	5,043
H22	0.32	0.23	0.16	8	4,933
H23		0.25	0.27	13	4,822

(2) 中学校

	全国 不登校 割合(%)	兵庫県 不登校 割合(%)	豊岡市		全生徒数
			不登校		
			割合(%)	人数	
H19	2.91	2.76	2.09	57	2,729
H20	2.89	2.77	2.05	54	2,630
H21	2.77	2.69	1.80	46	2,560
H22	2.74	2.60	1.50	38	2,533
H23		2.60	1.11	28	2,528

H23 全国平均の公式発表はまだ出ていない。

《参考》

不登校児童生徒

何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、生徒が登校しないあるいは、したくてもできない状況にあり(ただし、「病気」や「経済的理由」によるものを除く)年間に連続または断続して30日以上欠席した児童生徒のことをいう。

2 豊岡市の取組み

(1) 小・中連携推進事業の推進

小学校と中学校の接続を円滑にして、「小1プロブレム」「中1ギャップ」などの進



学する際の戸惑いや不安を解消している。

中学校教員による小学校への「出前授業」

「小・中連携シート」をもとにした、小・中学校教員による引継会（児童に関する情報の共有化）

小学生による中学校授業参観、部活動参観（オープンスクールの活用）

《参考》

小1プロブレム

小学校に入学したばかりの1年生が、集団行動が取れない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの現象が数ヶ月継続する状態

中1ギャップ

小学生から中学1年生になったとたん、学習や生活の変化になじめずに不登校になったり、いじめが急増したりする現象

（2）不登校対策アクションプランの策定

「不登校を出さないための対応」と「不登校への対応」とに分けて、学校、地域、家庭、関係機関で役割を分担し、情報交換を行いながら取組みを進めている。

（3）スクールカウンセラー、不登校対策補助員の活用

スクールカウンセラーを全中学校に配置し、子どもたちの心の相談に当たっている。また、不登校対策に係る補助教員も平成21年度から配置し、小・中学校で別室指導等を行い、児童生徒が教室へ入ることができるように支援を行っている。

（4）ふれあいセンターの活用

ふれあいセンター（塩津町10-14）では、不登校児童・生徒に対して、学校復帰への支援を行っている。また、不登校を未然に防ぐため、ふれあいセンター指導員が学校と連携しながら家庭訪問等を行っている。

（5）子どもの心を理解する強化月間の充実

児童生徒の「心のサイン」や人間関係を把握し、いじめや不登校、問題行動等を早期発見・早期対応するため、5月、9月、2月を強化月間として、アンケート等により実態把握を行っている。

3 今後の取組み

夢を持ち、チャレンジする子どもの育成を図るため、こども夏期大学を拡大して、「体験できる場」を設定する。授業改革により、「分かる授業の創造」を図っていく。

また、小・中学校引継ぎシステムの検証の実施、10日以上欠席者の早期対応、不登校に関するデータの分析、学校と関係機関との連携強化等を実施して、現在の取組みを継続して実施する。

〔問合せ〕豊岡市教育委員会こども教育課 0796-23-1451